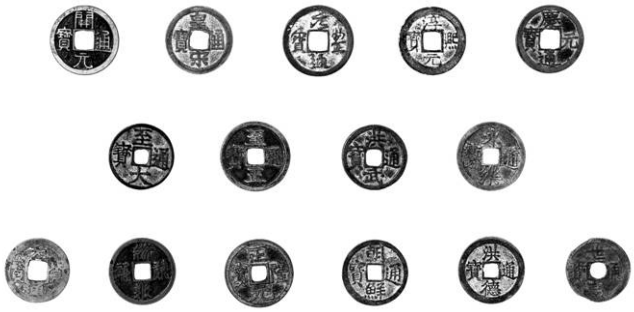
■中世日本で流通していた銭貨

中世の日本で流通していた貨幣は、中国など海外から流入してきた銭貨“渡来銭”でした。渡来銭には、中国の各王朝銭、安南（ベトナム）、朝鮮、琉球をはじめとする東アジア各地の銭貨が含まれました。



渡来銭

■びた銭

「びた銭」（後に「鐚銭」）は、質の悪い銭をさすものとされてきました。

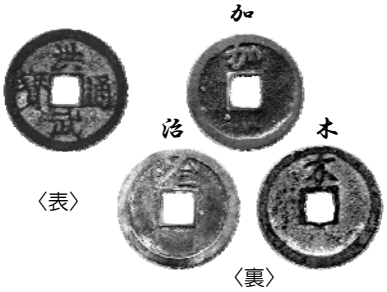
しかし、近年の研究により、中世末～近世初期の史料に出てくる「びた銭」がさすものは、時期や地域により異なり、必ずしも質の悪い銭貨をさすわけではないことがわかってきました。

同じ地域で「びた」と出てくるときに、当初は価値の低い銭だったものが、銭の希少化により価値が上昇し、主要銭貨となっている事例が、広範囲でみられます。

中世に流通した質の悪い銭貨

■国内でつくられた中世の銭貨

中世には渡来銭以外にもさまざまな銭貨が流通し、その中には国内でつくられたとみられる銭貨もありました。



「加治木銭」

九州の銭貨

中世末期から近世初期にかけて、九州・島津氏領内の大隅加治木郷（鹿児島県）で私鋳されたといわれます。

原材料のうち鉛は、主に日本産であることがわかっています。

「鳩目銭」＜緡＞　　「鳩目銭」

琉球の銭貨

琉球の銭貨に関しては不明な点が多いですが、数種類の銭貨の存在が知られています。

琉球で銭貨がつくられたとされる時期(15～16 世紀)は、中国からの銭貨流入が減少したと考えられています。

これらの銭貨は、沖縄のほか九州でも多く出土しています。

「和開通宝」　　「開開宝宝」

島銭

稚拙で、独特な書体を持つ模鋳銭で、13～14 世紀頃につくられていたと考えられています。

「和開通宝」「開開宝宝」といった文字が見られるものもあり、国内で私鋳されたとする説が有力です。

原材料の鉛は、主に中国産であることがわかっています。

■国内での銭貨鋳造の実態

室町幕府は、撰銭令の中で、日本でつくられた銭貨を「日本新鋳料足」と呼んでいました。これまでも国内で銭貨がつくられていたことは知られていましたが、近年、それを考古学的に示す銭の鋳型などが発掘されるようになりました。

「無文銭とその鋳型」
（複製品：大阪府堺市出土）

「永楽通宝枝銭」
（複製品：茨城県東海村出土）

■中世社会への銭貨使用の浸透

●銭貨にまつわる逸話

鎌倉幕府の評定衆・青砥藤綱が滑川に落とした１０文を拾うため、５０文で松明を買い、従者に探させる場面が描かれています。

青砥藤綱の実在は不明ですが、鎌倉時代に銭貨が浸透していたことをうかがわせるエピソードです。

●中世のモノの値段の一例

みかん２個１文		15 世紀前半
鯛１尾	15 文	16 世紀半ば
扇１本	33 文	14 世紀前半
牛１頭	1,000 文	15 世紀後半

国立歴史民俗博物館
「古代・中世都市生活史（物価）データベース」より

■中国の流通貨幣の変遷

大量の中国銭貨が中世日本や東アジアの国々へ流出した背景には、中国で流通した貨幣の変遷がありました。中国で流通した貨幣は北宋・南宋時代まで銭貨が中心でしたが、その後紙幣や銀へとかわり、その過程で大量の銭貨が国外へと流出していきました。

●銭貨鋳造のピーク　ー北宋ー

北宋時代は、中国史上で最も銭貨が鋳造され、流通した時期です。ピーク時には 1 年間で 50 億枚以上の銭貨が鋳造されました。四川地方などでは、鉄製の銭貨(鉄銭)も流通しました。

「熙寧元宝」（一文銭）　「熙寧重宝」（折二銭）　「熙寧重宝」（鉄大銭）

宋代の銭貨

銭貨種類の増加！年号銭の登場

北宋の銭貨には、「年号」と「通宝・元宝」が表示され、年号がかわるごとに新しい名前の銭貨がつくられました。

「宋通元宝」　「太平通宝」太平年間(976～983 年)　「淳化元宝」淳化年間(990～994 年)

年号銭以前の銭貨　　年号銭

●紙幣流通の時代―元・明ー

元・明初の中国は、国家の発行する紙幣（鈔）が貨幣の主役となりました。紙幣の流通促進のため、銭貨の使用はたびたび禁止され、国外に銭貨が流出する原因となりました。

至元通行宝鈔原版

原版(左)から作成した紙幣イメージ

大明通行宝鈔

マルコ・ポーロの見た中国（元）の紙幣流通

『東方見聞録』には、元の時代の、紙幣流通の様子が記されています。

紙幣ができあがると、カーン（元の皇帝フビライ・ハン）はいっさいの支払いをこれで済ませ、治下の全領域・全王国にこれを通用せしめる。

（中略）どの地方でもどんな人でも、いやしくもカーンの臣民たる者ならだれでも快くこの紙幣での支払いを受け取る。

それというのも、彼らはどこへ行こうとこの紙幣で万事の支払いができる。つまり真珠・宝石・金銀より以下あらゆる品物がこれで買うことができるからである。

愛宕松男訳注　東洋文庫 158『東方見聞録 1』(平凡社・1982)より抜粋

●中国で流通した銀

銀は、宋代以降、中国南方の長江流域を中心に貨幣として流通するようになりました。銀は地金の重さに応じた価値で流通し、秤で重さを計測して使用しました。銭貨と紙幣は国家が発行した貨幣でしたが、銀は民間主導で流通しました。

銀錠(宋～元)

一定の重量・品位につくられた銀のインゴット（銀塊）。発行者・発行地・発行年などが刻まれ、それにより価値を保証されました。

ご協力をいただいた機関

(50 音順)

和泉市久保惣記念美術館
出光美術館
石見銀山世界遺産センター
大田市教育委員会
京都府立総合資料館
宮内庁三の丸尚蔵館
甲州市教育委員会
高徳院
東京国立博物館
国立科学博物館
国立歴史民俗博物館
堺市教育委員会
清浄光寺
市立函館博物館
島根県教育庁
島根県立古代出雲歴史博物館
東海村教育委員会
東京学芸大学附属図書館
林原美術館
広島県立歴史博物館
福岡市美術館
福岡市埋蔵文化財センター
防府天満宮社務所
山梨県立博物館
湯之奥金山博物館

日本銀行金融研究所

貨幣博物館

電話:03－3277－3037(直通)
〒103-0021
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1
http://www.imes.boj.or.jp/cm

October 10, 2009 1st edition